

地域の夢実現事業

各地区取組報告書

(平成29年度～令和3年度)

市民部 地域活動支援課

鹿沼市では、平成 29 年から令和 3 年度までの 5 年間、
自分たちの地域のことは自分たちで考え、行動するという『市民自治』の理念のもと、
地域住民が一丸となって地域の課題解決や魅力の向上のために各種事業に取り組む、

【地域の夢実現事業】を実施してきました。

地域の現状について住民自らが真剣に考え、より良い地域のための事業を計画し、

新型コロナウイルス感染拡大により思うようにいかないところがありながらも、

住民のチカラを結集し、様々な工夫して実施してきました。

その実績、成果や今後の課題等をまとめました。

地域の夢実現事業とは・・・

◇ 目的

- 地域の課題解決や活性化を目指し、住民が合意した事業を支援することで、誇りや愛着の持てる自主的な地域づくり活動を推進 することを目的とした事業

◇ 対象組織

- 地区コミュニティ推進協議会や住民の総意を集約できると認められる組織

◇ 対象事業

- 第1階層：全地区で取り組む事業

防犯灯 LED 化補助事業、防犯灯・街路灯電気料補助事業、敬老事業、
みまもり隊活動事業、きれいなまちづくり事業、自主防犯団体活動事業

- 第2階層、第3階層：申請のあった地区で取り組む事業

自由な発想で提案され、地区の合意を得て、地域住民が主体となって取り組む事業
(第2階層：地区単位、第3階層：複数地区合同)

※ 本報告書は、第2階層、第3階層の取り組みについてまとめたものとなります。

目次

各地区実施事業概要一覧	4
中央地区	6
東部地区	10
北部地区	14
板荷地区	18
西大芦地区	23
加蘇地区	27
北犬飼地区	31
南摩地区	35
南押原地区	40
東大芦地区	45
菊沢地区	49
北押原地区	54
東部台地区	58
栗野地区	62
粕尾地区	66
永野地区	70
清洲地区	74
西大芦・東大芦地区合同	78
栗野4地区合同	82
【参考資料】	
各地区補助金交付金額一覧	86
地域の夢実現事業実施マニュアル	88

地域の夢実現事業実施状況(平成29～令和3年度実施事業概要一覧)

○第2階層

No.	地区名	事業名	事業概要
1	中央	① 新規防犯灯設置事業	主要幹線道路の開通に伴い、通学路上の不安箇所へ防犯灯を設置し、防犯パトロールや交通指導を強化する。
		② 岩山ハイキングコース整備事業	岩登りができる人気の山「岩山」の散策路整備や登山コースPRにより地域活性化を図る。
		③ 中央地区支え合い事業	地域住民による高齢者の生活支援により、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに取り組む。
		④ 安全で安心する地域づくり事業	市街地の安全確保と犯罪抑止のため、防犯カメラを設置する。
2	東部	① 安全で安心なまちづくり事業	町ごとに防災マップを作成し、マップを基にした避難訓練を実施したり、備蓄品を整備する。
3	北部	① 健康で生き生き暮らす地域づくり事業	地域住民が気軽に利用できる公園に健康遊具を設置し、健康増進とコミュニケーションの向上を図る。また、高齢者を対象とした交流の場づくりに取り組む。
		② 安全で安心する地域づくり事業	千手山公園周辺の安全確保と犯罪抑止のため、防犯カメラを設置する。 防災対策の強化を図るため、各種団体と連携し、防災備品等を整備する。
4	板荷	① 野生鳥獣被害防護柵設置事業	野生鳥獣の侵入を防ぐ防護柵の設置および補修を行い、農作物被害の軽減や、生活圏での安全を確保する。
		② 農業を活用した地域づくり事業	板荷地区の特産物を活用し、生産・加工に取り組むことで、地域経済の活性化を図る。
		③ がっこ山100年の森づくり事業	地区の森林浴ゾーンの整備と植樹作業を実施し、環境保全に取り組むとともに、交流人口の増加を図る。
5	西大芦	① 宅配弁当及び農村食堂運営事業	旧西大芦小を活用し、地域住民により手作り弁当を製造し、宅配サービスすることで地域の高齢者を支援する。
		② 大芦川流域活用事業	ホームページ・おもてなしマップを作成。現地に看板を設置し、情報発信を行い交流人口の増大を図る。
		③ 西大芦農産物市事業	地元農産物や特産品の展示直売、農園管理運営を通して、住民のふれあいの場、地域間交流を図る。
6	加蘇	① 防犯カメラ設置事業	防犯カメラを設置し、児童生徒の登下校時の安全確保や地区内への不法投棄を防ぎ、地区内の安全を確保する。
		② 加蘇地区観光PR事業	石裂山登山道入り口のトイレを水洗化し、地域の観光拠点の一つとして活性化を図る。 スタンプラリーイベントを開催したり、観光資源・イベント情報等を積極的に発信し、交流人口増を図る。
7	北犬飼	① 安全安心なまちづくり事業	地域住民1人1人が防犯意識を高めるとともに、連帯感を深め、安全で安心な住みよい地区となることを目指す。
		② 地域交流活動支援事業	地区の交流イベント運営に新たに中学生を加え活性化を図るとともに、備品等を整備し、内容の充実に取り組む。
		③ 学校と地域の交流活動応援事業	地区内の小中学校と地域住民が協働で地域の特色や強みを生かした活動により「地域も子どもを育てる」を実践する。
		④ 地域助け合い事業	住民による認知症等行方不明者捜索活動組織を構築する。また、高齢者へ弁当を配達し、安否確認や交流を推進する。
		⑤ 地域資源活用事業	地区内の遊休山林の再生を目的に、地域再発見フォトコンテスト&カレンダー制作する。
8	南摩	① 高齢者住環境美化支援事業	高齢者支援のために、住民で支援部隊を組織し、庭の除草、庭木の手入れなどをボランティアで支援する。
		② なんま野菜の給食プロジェクト	耕作放棄地を活用して生産した野菜を地域内の小・中学校へ学校給食用の食材を提供する仕組みを構築する。
		③ なんまん商標登録事業	ご当地キャラクターの商標権を取得し、商品開発して、知名度向上と稼ぐチカラを身につける。
		④ なんまんお祭りプロジェクト	オリジナル商品「なんまん焼き」の機材などを整備し、地域イベントの充実と活性化を図る。
9	南押原	① 友遊館事業	旧南押原児童館を改修し、高齢者、子どもの集いの場など地域の拠点として事業を展開する。
		② ふるさと祭り事業	より幅広い地域住民の参加を促し継続して事業を実施できるよう、従来の盆踊りイベント内容の充実を図る。
10	東大芦	① 文化観光交流事業	交流都市からの招待者と地域住民が農作物づくり、収穫祭を通して交流を深める。
		② こども育成交流事業	生き物観察会や農業体験など地域の自然を生かした体験事業を実施する。
		③ 交流拠点確立事業	地域内の公共施設(出会いの森総合公園ゲートボール場・下沢引田農村公園)を活用し地域活性化を図る。

No.	地区名	事業名	事業概要
11	菊 沢	① 新規防犯灯整備事業	新興住宅地の増加等に伴い、住宅地周辺や通学路上の不安箇所の住民要望に対し、独自の防犯灯を整備する。
		② 桜のふるさと事業	とちぎのふるさと百選に選出された地区を含めた黒川堤防沿いに地域の子もたちと桜を植栽する。
		③ 文化伝承事業	長年親しまれている地域の文化財を次世代に伝えることを目的に、看板設置や愛唱歌のCD化等に取り組む。
		④ 千渡コミュニティ体制整備事業	人口増により新旧住民が混在する千渡地区のコミュニティ強化を図るため、協議会設立と推進活動に取り組む。
		⑤ 糠塚山ふるさと公園整備事業	糠塚山を地域の交流の場として整備し、草刈や清掃などの管理やイベントを通して、地区の活性化を図る。
		⑥ 地域のための防災啓発事業	住民の防災意識向上と災害時の連携強化に取り組み、地域の防災対策力の向上を図る。
12	北押原	① 北押原フレンドフェスタ事業	地区内の交流促進を図るため、従来のフレンドフェスタを他事業と合同開催するなど内容の充実を図る。
		② ふれあい広場ドリーム事業	自治会館を拠点として、幼児から高齢者まで住民が一緒に集える事業を実施、子育て支援や世代間交流を図る。
		③ 奈佐原文楽稽古場改修事業	地域で守り続けている奈佐原文楽の稽古場の改修等を実施し、後継者育成、地域交流機会としての活用を図る。
13	東部台	① 南大通りにぎわい促進事業	桜並木のライトアップをLED化及び延長し、市内外からの誘客を図る。
		② ふれあい公園多目的化整備事業	公園内に大型テントを設置し、災害時やイベント実施時等に活用する。
14	粟野	① 安全安心なまちづくり事業	防災用品・非常食の扱い方、避難所の開設運営などを体験し、住民の防災意識の高揚を図る。
		② 高齢者支援対策事業	各地区に出向いて高齢者サロンを開催。将来的には、各地区が自主的に開催できるような支援を行う。
		③ つつじの里活性化事業	つつじの名所城山公園～つつじの湯を「つつじの里」として位置付け、交流人口増を目指す。
15	粕 尾	① 地域世代間交流事業	粕尾川を活用し、子どもによる川遊びやマスつかみの自然体験学習を実施する。
		② 次世代育成支援地域間交流事業	天体望遠鏡を導入し、星空観察会等を実施することで地域の魅力を発信するとともに、地区内にある前日光ハイランドロッジを活用し地域活性化を図る。
		③ 防犯・防災対策推進事業	防犯カメラ設置・防災計画の作成・防災ヘリのランデブーポイントの整備等により、地域の安全強化を図る。
		④ 野生鳥獣対策事業	野生鳥獣対策を推進するため、関係機関と協議を進めるとともに、野生鳥獣対策を冊子にまとめ活用する。
16	永野	① 防犯カメラ設置事業	防犯カメラを設置し、住民自らの手で地域を守る意識と安心した生活の維持を図る。
		② コミュニティ公園整備事業	コミュニティ公園の樹木を剪定し、花木を植栽し華やかさを増した公園でさくら祭りを開催し、地域の交流の場とする。
		③ 永野さくらまつり事業	整備した公園を活用し、地区のイメージアップと地域間交流を目的に地域住民が企画運営するまつりを開催する。
17	清洲	① 安全安心なまちづくり事業	防犯灯設置、草刈り等の環境整備、防犯パトロール体制を構築する。また、防災資機材整備、避難訓練を実施し、関係組織の連携強化と防災意識向上を図る。
		② 環境にやさしいまちづくり事業	草刈りや花の植栽、資源ごみ回収のための保管倉庫の設置などを実施し、地域ぐるみで環境活動に取り組む。
		③ 生き生きふれあいサロン事業	地区の拠点施設(自治会館)をバリアフリー化し、高齢者の交流の場を整備する。
第2階層合計			市内全17地区で、計53事業を実施

○第3階層

No.	地区名	事業名	事業概要
1	西大芦 東大芦	① 大芦川創生事業	夏季の川遊び客の急激な増加に対応して、行政・警察と協働でルールづくりと環境整備、駐車場運営等に取り組む。
2	粟野4地区 合同	① 地域とともにある学校づくり事業	「粟野中オープンスクール」の事業を拡大させ、学校・家庭・地域が連携したアートイベントなどの交流事業を開催し、地域交流と活性化を図る。
第3階層 合計			2地域で、2事業を実施

上記の通り、5年間で全17地区、2地域で計55事業を実施

中央地区

人口	男	3,074人	女	3,425人	計	6,499人	世帯数	2,567世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 新規防犯灯設置事業 【防犯】

主要幹線道路の開通に伴い、通学路上の不安箇所には防犯灯を設置し、防犯パトロールや交通指導を強化する。

LED 防犯灯設置 (7基)

② 岩山ハイキングコース整備事業 【観光】

岩登りができる人気の山「岩山」の散策路整備や登山コースPRにより地域活性化を図る。

地図入案内板、矢印案内板、説明案内板、全体案内板、危険防止看板、コース案内板、方向指示板の設置、パンフレット、ハイキングコースマップの作成

③ 中央地区支えあい事業 【福祉】

地域住民による高齢者の生活支援により、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに取り組む。

ブロワ、下刈機、刈払機、ヘッジトリマ、生垣バリカン、刈払機チップソー等購入

④ 安全で安心する地域づくり事業 【防犯】

市街地の安全確保と犯罪抑止のため、防犯カメラを設置する。

防犯カメラ設置 (4台)、防犯カメラ作動中シート設置 (20ヶ所)

《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	1,393,480	—	6,864,890	1,576,665	9,835,035
その他補助金	—	0	—	0	0	0
自己資金	—	0	—	0	188	188
計	—	1,393,480	—	6,864,890	1,576,853	9,835,223

【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	1,393,480	0	0	0	1,393,480
事業②	—	—	—	3,990,580	1,576,853	5,567,433
事業③	—	—	—	212,310	0	212,310
事業④	—	—	—	2,662,000	0	2,662,000
計	—	1,393,480	—	6,864,890	1,576,853	9,835,223

《事業への取り組みを振り返って》

① 新規防犯灯設置事業については、中央地区の花岡町・日吉町地内でここ数年、住宅地の分譲や店舗出店が活発であり、若い世代の増加に伴い、幼児・小中高生も増加してきました。自治会としても「安全・安心なまちづくり」の観点から、交通安全指導や登下校の見守りなどを住民の協力を得て実施しています。

平成29年3月に「南大通り」が「古峰原宮通り」と連結開通し、交通の利便性が向上されましたが、新設道路沿いには防犯灯が整備されていなかったため、児童生徒の下校の際に、保護者や近隣住民から、事故や事件への懸念が多数寄せられていました。

そこで、地域の要望に対応するため、「平成30年度地域の夢実現事業」の申請を行い、「防犯灯の新設計画」が採択決定され、「LED防犯灯の新設」設置工事を実施いたしました。その結果、周辺住宅地や通学路の不安箇所が解消され、事件・事故等の発生もなくなりました。

今後も、「安全・安心」を確保するのが自治会の役目であり、「明るく住みやすいまち」を目指して、自治会や育成会をはじめ、各種団体の方々と住民の方に協力をいただき、中央地区の各地域の状況を把握した上、地域の安全環境を計画的に確保し、防犯パトロールや交通安全指導を積極的に実施していきたいと思っております。

～ 「防犯灯」 設置状況 ～



② 岩山ハイキングコース整備事業の「岩山」については、中央地区の北西で日吉町と西鹿沼町の間位置しており、標高328mの低い山ですが、多くの岩場があり、ハイキングはもちろん、手軽にロッククライミングが楽しめる人気のある山です。栃木百名山にも選ばれ、都心から在来線で2時間ほどの距離にあることから、県内外からもたくさんの登山客が訪れています。古くから子供たちの遊び場であり、学校の授業や遠足などで利用されるなど、「岩山」は、現在も中央地区の住民にとって、思い入れの深い地域のシンボリックな山として親しまれています。しかし、近年では、心ない人たちの不法投棄により山は荒廃し、岩場のクサリやハシゴなど施設の老朽化も目立ち、管理の行き届かない状況が続いており、地域住民も心を痛めている状況であり、急峻な岩場など危険箇所が点在し、事故の報告も少なくありません。

そこで、地域の夢実現事業を導入し、中央地区の地域の財産である「岩山」を整備することにいたしました。県内外からの訪問客が多い「岩山」を、安全・安心に登山ができるように「岩山登山コース案内看板」等の設置を行い、「岩山」の魅力を最大限に引き出すことができました。併せて、「中央地区の史跡・名所」等の入った「ハイキングコースマップ」や「全体案内看板」等を作成することができ、中央地区の活性化と地域づくりに、貢献することができました。

～各看板設置状況～



「岩山登山コース全体案内板」



「危険箇所案内板」



「ハイキングコース順路図」



「矢印案内板」

③ 中央地区支えあい事業については、高齢者が安心して暮らしていける地域づくりが、地域の抱える大きな課題となっており、中央地区においても、少子高齢化が進んでいます。そのような中、さまざまな事情により、日常生活を営む上で家事援助の必要性が生じ、かつ家庭内で援助を受けることができない方々に対して、支援者を派遣して自立への援助を行う「支えあい事業」を実施しています。

地区住民のためにその地区の住民が支援することは、「地域包括ケアシステム」での重要な取り組みの一つであり、これからの超高齢化社会においては、避けては通れない課題です。この支えあい事業を進めるにあたり、地域の夢実現事業を活用し、日常生活支援に必要な「資機材」を配備し、家事援助サービスの充実が図られ、高齢者等が安全・安心で快適な暮らしを実現することができました。

～「支えあい事業」作業の様子～



- ④ 安全で安心する地域づくり事業については、当地区の観光拠点である「新・鹿沼宿」の開設により活性化が図られ、いつも賑わっております。そこで開催されるやさつきマラソンや、鹿沼秋まつり等には、多くの観光客等が来訪しています。そのため、安全で安心する地域づくりを進めるため、地域の夢実現事業の実施により、「防犯カメラ等」を設置し、犯罪抑止力を高めるとともに、防犯意識の高揚につなげることができました。

～各設置状況～



「防犯カメラ」



「カメラ作動中」看板

東部地区

人口	男	4,852人	女	5,034人	計	9,886人	世帯数	4,065世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 安全で安心なまちづくり事業 【防災】

12町ごとに防災マップ（水害編・地震編）を作成するため、実際に地区内を歩き、水害と地震を想定した危険箇所を地図上に落とし込み、実効性の高いマップを作成する。

自治会別マップ作成用地図印刷、自治会別防災マップ作成 水害編（4,340枚）
自治会別防災マップ作成 地震編（4,295枚）

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	—	1,524,880	616,073	—	2,140,953
その他補助金	—	—	0	0	—	0
自己資金	—	—	0	0	—	0
計	—	—	1,524,880	616,073	—	2,140,953

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	—	1,524,880	616,073	0	2,140,953
計	—	—	1,524,880	616,073	0	2,140,953

《事業への取り組みを振り返って》

安全で安心なまちづくり事業について、次のような計画に基づいて、地域の夢実現事業を導入し実施しました。

1 地域の現状・課題

① 現状

東部地区は、市内の中心部を流れる黒川の東西の両側に位置する12町内で構成されています。内訳は、100世帯以下の町内は4町内、300世帯以下の町内は5町内、400世帯前後の町内は1町内、1000世帯以上の町内が2町内から構成されています。

② 課題

平成27年9月に発生した関東・東北豪雨や、令和元年10月に発生した台風19号により、黒川や周辺の中小河川からは溢れた水により、床下・床上浸水の被害や、道路が冠水したため指定された避難場所へ避難することができなくなり、大雨が収まるまで、心理的に不安な状況が続く事態でした。

2 地域の夢実現事業の導入

東部地区各自治会としては、日常生活を通じて、「自分にできること」・「関心のあること」を、地域の方々に「アンケート調査」を実施し、身近な「防災」について、地域の一人ひとりがみんなと一緒にこの課題に取り組むこととしました。その中で、私たちの取り組む「防災」は、『自分の大切な人を守る』ことを念頭にし、地域の夢実現事業の導入を決定し、「防災マップ（水害編・地震編）」を作成することにいたしました。

3 事業計画の実施

2年間の継続事業として位置付け、事業計画を策定し実施しました。

① 「防災マップ（水害編・地震編）」 令和元年度～令和2年度

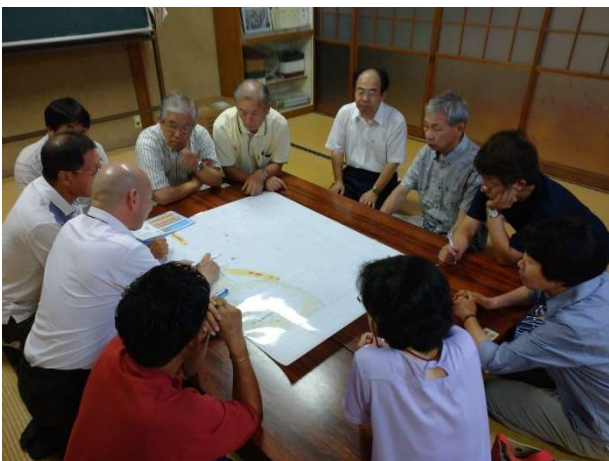
ア) 「防災マップ（水害編・地震編）」の特徴

- ・地域の安全情報と危機情報が一括して分かりやすく、理解できるようにしました。
- ・地域全体を視覚でとらえ、人や建物に被害を引き起こす発生の誘因やリスクを総合的に判断できるようにしました。
- ・行政を含めて、地域住民が共通認識をもてるようにしました。

イ) 「防災マップ（水害編・地震編）」作成研修会の実施

- ・東部地区の自治会や地域の各種団体に呼びかけ、マイ防災マップ作成の目的や作成方法の確認を実施し、「(株)ゼンリン」から専門の講師を招いて、12町内を5ブロックに編成し、ブロックごとにそれぞれの自治会や地域の各種団体の方々に「個別研修会」を実施し、災害時に即座に対応できる、「防災マップ（水害編・地震編）」作成に反映いたしました。

～防災マップ作成研修会の様子～



ウ)「防災マップ（水害編・地震編）」の作成

- ・ 12町内が、個別に町内の「まち歩き」を実施することにし、事前に班編集・まち歩きルート決定・まち歩き図面・カメラ等を準備し行いました。
- ・ 「まち歩き」を実施した目的は、具体的な避難軽減策を見つけ、避難時における危険箇所の認識に関する施策づくりを、住民自らが行うことにより、地域の防災力をアップすることができました。

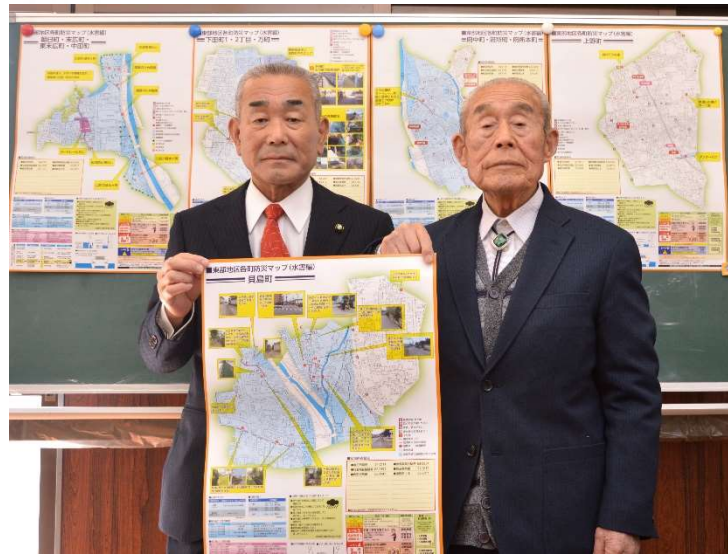
～「まち歩き」調査の様子～



エ)「防災マップ(水害編・地震編)」の印刷・全戸配布

- ・住民の防災意識の向上・啓発を図るため、「防災マップ(水害編・地震編)」の「印刷・全戸配布」を、令和元年・2年度中に実施いたしました。
- ・各家庭では、見やすい箇所に「防災マップ(水害編・地震編)」を貼り、家庭で「防災」についての正しい心構えや、大切な人を守る解決方法を普段から話し合いながら、いざというときに、近所や地域の助け合いの精神がうまく機能できるように、環境を整備することができました。

～「防災マップ(水害編・地震編)」成果品～



下野新聞にも掲載されました!

② 今後の「防災マップ(水害編・地震編)」の活用について

今後は、域住民が自ら町を歩き、災害時の危険箇所や避難経路を地図上に落とし作成した、「防災マップ(水害編・地震編)」を活かしながら、地域防災力の向上に貢献していきたいと思っています。さらに、新しいノウハウを常に取り入れながら、将来にわたり継続していけるような、防災訓練を実施していきたいと思っています。

北部地区

人口	男	2,945人	女	3,105人	計	6,050人	世帯数	2,531世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 健康で生き生き暮らす地域づくり事業 【福祉】

地区内公園5か所に高齢者向け健康器具を設置し、健康増進とコミュニティの向上を図る。

健康器具の設置

ストレッチフープ2基、背伸ばしチェアー3基、スプリングバー1基、
足上げストレッチ1基、健康マージャンセット 10自治会に2組ずつ配備

② 安全で安心する地域づくり事業 【防犯】

(1) 千手山公園内に防犯カメラ等を設置し、利用者の安全確保と犯罪抑止力を高める。

防犯カメラ2台、防犯カメラ作動中看板3基

(2) 防災備品等を設置し、防災対策の強化を図る。

防災備品等の設置

屋型テント6張、会議用テーブル10台、会議用テーブル台車1台、会議用イス30脚、
会議用イス台車2台、デジタル印刷機1台、専用架台1台、ノートパソコン1台、
防災機材倉庫1棟

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	—	—	4,073,740	2,530,520	6,604,260
その他補助金	—	—	—	0	0	0
自己資金	—	—	—	0	120	120
計	—	—	—	4,073,740	2,530,640	6,604,380

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	—	—	2,830,300	0	2,830,300
事業②(1)	—	—	—	1,243,440	0	1,243,440
事業②(2)	—	—	—	—	2,530,640	2,530,640
計	—	—	—	4,073,740	2,530,640	6,604,380

《事業への取り組みを振り返って》

北部地区自治会協議会では、次の課題を解決するため、地域の夢実現事業を導入し実施しました。

1 地域の現状・課題

① 現状

北部地区は、まちなか3地区（ほか中央地区・東部地区）のひとつで、10自治会で北部地区自治会協議会を組織しています。地区の面積は1.89km²で、市街地への北玄関として、国道121号線・352号線（例幣使街道通り）沿いにあり、黒川の西側には、情報センター、図書館、川上澄生美術館、文化活動交流館等からなる文化ゾーンが形成されています。さらに、西には木造大規模校舎の北小学校、市民文化センター、市民の憩いの場所として千手山公園が整備されています。

近年では、ショッピングモールや路地裏カフェなどができ、老若男女問わず楽しめる街となっています。

② 課題

北部地区の課題については、人口減少と少子高齢化です。人口の減少は、地域の経済活動の減速や、地域の伝統的な行事やイベントの消滅など、地域の活力を低下させる要因となって、地域コミュニティの衰退につながります。地域コミュニティが衰退すると、災害等の互助機能や地域の防犯力が弱まり、住民の安全で安心な生活が脅かされてきます。少子高齢化では、子供が少なくなると直接人口減少につながり、地域に活気がなくなってきます。また、高齢者が増えると要支援や要介護者が増加します。さらに、一人暮らしの高齢者が増えると、引きこもりがちになり孤独死などの社会問題が起こり、地域の支えあいによる仕組みづくりが急務となりました。

防災面では、H27年の関東・東北豪雨と令和元年の台風19号による大規模災害の発生により、地区内に甚大な被害が発生し、避難誘導のあり方や、災害時の地域防災対策を拡充していく必要が出てきました。防犯面においては、千手山公園内に不審者が現れた情報があり、近隣の北小学校関係者より不安の声があがったことから、防犯対策にも力を入れていく必要性が生じました。

そのような状況の中、北部地区では、地区の課題を住民の皆さんがどのように思っているのか全世帯を対象としたアンケート調査を実施いたしました。その結果、338世帯から回答があり、課題の多くは、少子高齢化対策、一人暮らし高齢者問題、防災・防犯対策等が上げられました。

北部地区自治会協議会では、これらの課題を解決するため、協議会において協議・検討を重ねた結果、地域の夢実現事業を導入し、次の2つの事業のなかで、取り組んで実施することにいたしました。

2 地区の具体的な取り組み

① 健康で生き生き暮らす地域づくり事業

ア 地域住民の憩いの場、語らいの場として親しまれている地区内公園に、高齢者を含め誰もが気軽に利用できる「健康器具」を設置し、健康増進に努めました。特に引きこもりがちと言われる高齢者にも、公園で過ごす時間を増やしてもらうことで、多世代にわたる交流を促進し、北部地区の人的環境を魅力的なものに育ててきました。公園は、無人の時間が長いとが集まりにくいもので、人影が増えると相乗効果で活気が出てきます。健康増進と併せて地域コミュニティの更なる向上を実現できるよう、今後も積極的に活用していきます。

イ 各自治公民館に「マージャンセット」を配備して、高齢者を対象とした健康マージャン教室を開催しました。マージャンは、脳の活動を活性化させ、指先を使い適度な会話を楽しみながらゲームをするので、認知症予防につながります。これにより、高齢者の割合が多い地区だからこそ、健康で生き生き過ごせる長寿社会の形成が図られます。また、初心者でも気軽に参加できる仕組みを工夫して、定期的な開催と北部地区全体の交流大会を行うことで、地域コミュニティの推進を図りました。健康マージャンは、「お金を賭けない」、「アルコールを飲まない」、「タバコを吸わない」などの厳格なルールがあり、誰もが健康的に楽しみながらゲームを行うことで、中高年の生きがいづくりの手段として全国的に広がりを見せています。

さらに、同じルールで体力に関係なく取り組めることから、課題の一つである世代を超えた交流も促進できるものと考えます。

～「健康器具」設置状況～



② 安全で安心する地域づくり事業

北部地区住民の憩いの場である千手山公園に、「防犯カメラ」と「防犯カメラ作動中」を知らせる看板を設置しました。千手山公園は、桜やツツジの名所として市民に親しまれている公園です。また、おとぎ電車や観覧車などがある遊園地として子供達や家族連れ、若いカップルに人気のあるスポットで、市内外から多くの来園者がいます。その公園内に、防犯カメラと看板を設置することにより、犯罪抑止効果を高めるとともに、地域の防犯意識の高揚につなげ、日常的に犯罪に対して高い意識で備える地域づくりを目指しています。

次に、防災面では、平成27年の関東・東北豪雨と令和元年の台風19号により大規模災害が発生し、北部地区では甚大な被害を受けました。平成29年に、全世帯を対象としたアンケート調査では、防災対策が必要との回答が多数ありました。

このような状況を踏まえ、北部地区自治会協議会では、各種団体との協議を重ねた結果、防災備品等の配備が必要との結論に至り、災害時の復旧対策を強化していく観点からも、北小学校に「屋型テント」、「会議用テーブル・イス」、「パソコン」、「防災機材倉庫等」を整備いたしました。

今後も、災害時に強い安全で安心する地域づくりを推進していきたいと思えます。

～各設置・配備状況～



「防犯カメラ」



「カメラ作動中」看板



「防犯機材倉庫」



「屋型テント」

板荷地区

人口	男	726人	女	782人	計	1,508人	世帯数	615世帯
----	---	------	---	------	---	--------	-----	-------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

≪事業概要【分野】と主な支出内容≫

かるたで育む 100年のむらづくり～「住めば都と 村栄え」プロジェクト～

①野生鳥獣被害防護柵設置事業 ～「掘できて食う 米の飯」プロジェクト～【獣害対策】

生活圏に鹿やイノシシなどの野生の動物を入れないように、防護柵の設置又は補修を行うことにより、農作物への被害の軽減や日常の生活圏での安心、安全を確保する。また、地域住民で柵の保守を行うことで地域の連帯感の醸成を図る。

- ・防護柵（ワイヤーメッシュ）の新設 16,280m ・既設柵の防護ネットの増設等 10,970m
- ・既設柵の補強、補修及び維持管理等

② 農業を活用した地域づくり～「板荷の石高 三千石」プロジェクト～【コミュニティビジネス】

板荷地区の伝統的作物（そば）や“オンリーワン”の作物（板荷茶、朝鮮人参）等の話題性の高い作物を活用して報道機関やSNS等で取り組みを発信し、関心を持った地域内外の人と連携や交流を構築すると共に、板荷そばを提供する店舗の連携又は新設、「がっこ山」との事業連携を検討して都市農村交流活動への発展を目指す。

- ・のぼり旗による知育づくり及び板荷そばのPR ・御種人参（朝鮮人参）の種子及び栽培継承の試験圃場設置
- ・そば調理施設整備新設及び「板荷畑いつくし美庵」開店

③がっこ山 100年の森づくり事業～「おん鷹鳥屋場は 四十八」プロジェクト～【景観保全】

樹種転換等植林作業により、森林浴ゾーン（散策のできる山の公園）の整備を進める中で、山桜の植樹や巣箱の設置などの魅力ある拠点整備により、交流人口の拡大を図ると共に、山林作業を通じて得た知識と経験を地域の山林荒廃対策や環境保全活動につなげる。

- ・作業用機器及び安全対策物品の購入
- ・山桜の植樹作業（宝くじ桜寄贈事業/106本）の実施 ・巣箱作成設置

≪収支決算≫

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—		3,629,000	4,070,000	2,760,000	10,459,000
その他補助金	—		5,852,418	5,421,350	9,327,675	20,601,443
自己資金	—		0	0	345,290	345,290
計	—		9,481,418	9,491,350	12,432,965	31,405,733

【支出（円）】

事業 No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—		9,045,593	9,025,325	9,182,675	27,253,593
事業②	—		135,000	50,130	2,566,290	2,751,420
事業③	—		300,825	415,895	684,000	1,400,720
計	—		9,481,418	9,491,350	12,432,965	31,405,733

《事業への取り組みを振り返って》

かるたで育む 100 年のむらづくり ～「住めば都と 村栄え」プロジェクト～ とは

1976 年(昭和 51 年)、板荷小学校創立記念日に児童のために「郷土史 “いろは” かるた」が作られました。間もなく半世紀を迎える今も、かるたは板荷地区の歴史を学ぶ教材や小学校や地域団体主催の「かるたとり大会」等で利用されるだけでなく、子どもの頃かるたを覚えた親世代と子を結ぶ、貴重な資源となっています。

板荷地区地域の夢実現事業は、このかるたの句を計画になぞらえることで、地域の連携と子どもたちも含む幅広い世代への周知を図り、次世代に“繋ぐ”地域づくりを目指しています。



堀できて食う米の飯プロジェクト～野生鳥獣被害防護柵設置事業～ 【地域の基盤づくり】

野生動物から農作物を守り、安心して暮らせる環境をつくるため板荷を囲むように柵を設置し、生活と産業の基盤を守る整備をしました。



板荷の石高三千石 プロジェクト～農業を活用した地域づくり事業～

【産業振興 ☆話題作り☆】

近隣には無い、御種人参（朝鮮人参）、板荷茶等の“オンリーワン”の地域資源や昔の村人を支えた「そば」を活用して、地域経済の活性化を図ります。



おん鷹鳥屋場は四十八プロジェクト～がっこ山 100 年の森づくり事業～ 【地域のシンボル、交流拠点づくり】

板荷中学校の裏山の市有林にナラや桜の苗木を植え「山の公園」を造り、人の交流や自然体験のできる拠点にします。

また、“ふるさとの山”として心に残る整備を続けて行きます。



小中学校での取り組みの説明



のぼり旗による板荷地区地域の夢実現事業の PR



御種人参（朝鮮人参）試験圃場

かるたで育む100年のむらづくり
「住めば都と村栄え」プロジェクト

1 【掘できて食う米の飯】プロジェクト

2 【板荷の石高三千石】プロジェクト

3 おん鷹捕鳥場は四十八】プロジェクト

プロジェクト名	事業概要	内 容
掘できて食う米の飯	野生鳥獣被害防護柵 新設置・増設	新 設 16,280 m 増設等 10,970 m 計 27,250 m
板荷の石高三千石	農業を活用した地域づくり	地域活動、そばPRのぼり旗作成 朝鮮人参栽培圃場設置 そば調理施設整備（木造：21.3㎡） 「板荷畑いつくし美庵」開店
おん鷹捕鳥場は四十八	がっこ山100年の森づくり	植樹（桜）：10,000㎡ （106本植栽） 作業機器の購入

「住めば都と村栄え」プロジェクト1

【掘できて食う米の飯】プロジェクト ～野生鳥獣被害防護柵設置事業～
 イノシシ・シカ・クマなど野生鳥獣被害は農作物だけではなく、交通事故や生活の安全にも及んでいるため、地区全体の防護対策を整備するため、当事業と他事業の併用によりワイヤーメッシュ、防護ネットの設置及び既存防護柵の機能拡充を図り農作物被害の軽減や、生活圏での安全を確保を図る。今回の3プロジェクトの中で**核となる事業**

- 地域の課題** 農作物保護、耕作放棄地抑制、生活環境の安全確保
- 事業内容**
 - 新 設 16,280 m
 - 増設等 10,970 m
 - 計 27,250 m（鳥獣被害防止総合対策交付金の現物支給含）

- 想定される効果**
- 農村環境保全：農作物の生産安定、耕作放棄地抑制
 - 暮らしの安全：高齢者や子どもの安全
 - 住民連携強化：柵保全から連帯感の醸成



江戸末期から明治初期（約150年前）、板荷に吉良堀と久保田堀ができました。それまで板荷は米のできない麦飯どころでしたが、この2つの堀ができてから米が食べられるようになりました。

「住めば都と村栄え」プロジェクト2

【板荷の石高三千石】プロジェクト ～農業を活用した地域づくり事業～

江戸時代、板荷ではそばや雑穀類の他に朝鮮人参が栽培され三千石の石高があり、幕府の人参奉行所が置かれるなど、独自の歴史を持っていた。こうした歴史と共に歩んできた作物を活用し、地域で三千石の生産高を目指す事業

地域の課題

- ・高齢化、後継者不足による営農意欲の減退
- ・耕作放棄地の増加、農村環境の悪化

事業内容

プロジェクト1により安心して作物が作れる環境

◎“オンリーワン”を生かした地域農業の活性化

- ①御種人参（朝鮮人参）作付：種子存続、栽培維持
- ②板荷茶の存続に向けた取組：ラジオ取材を企画

◎そばの里づくり

板荷そばPR：のぼり旗作成、板荷畑いっくし美庵開店

想定される効果

- 経済活性化**：実効性と話題性のある活動の組合せ
- 交流拠点**：都市交流増と地域の集いの場
- 働く場づくり**：店舗、加工等の拠点づくり



組織の設立、協賛者募集

そばの里づくり推進に向け、そば店開店



御種人参の種子の維持



板荷茶の生産存続体制の検討



板荷では昔水田が少なく、ひえ・あわ・そばなどの穀類の石高（昔の穀物のます目）三千石と言われていました。
 その他に御種人参（朝鮮人参）が栽培され、今の板荷小学校の場所に人参奉行所が置かれ、周辺の村から朝鮮人参を買い上げていました。

「住めば都と村栄え」プロジェクト3

【おん鷹烏屋場は四十八】プロジェクト ～がっこ山100年の森づくり事業～

杉・ヒノキ林を鷹が営巣できるように自然豊かな雑木林に樹種転換するため、木の伐採、植樹を行い散策などでもできる山の公園にする事業（雑木山公園整備）

地域の課題

- ・H14年から実施している事業が、作業機器の老朽化による事業の停滞
- ・充実と山林作業の経験が不可欠

事業内容

- ◎植樹祭（桜）の実施：10,000㎡
（宝くじ桜による現購入物支給桜苗木106本）
- ◎作業機器の購入

想定される効果

- 安らぎ拠点整備**：山の公園、森林浴エリアの活用
- 交流の場**：山の資源を活用し交流活動の活性化



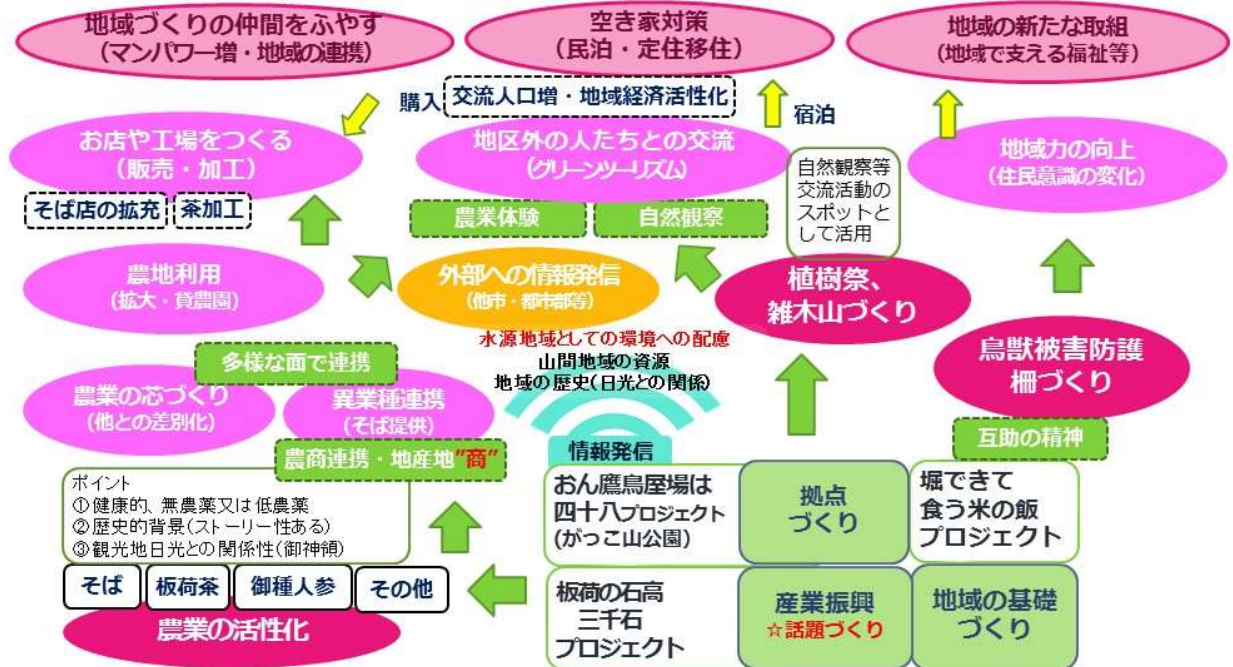
昔板荷では、江戸幕府の御用鷹をとりました。（鷹狩りという狩猟に使う鷹です）
 その場所が48もあり、豊かな山々に恵まれていたことがうかがえます。



「住めば都と村栄え」プロジェクトが目指すビジョン

“暮らしやすい” “暮らしたい” 地域に

農業を核とした“地域産業の確立”を目指す



島田コミュニティ協議会長はこう感じている！

●地域の変化をこう感じている。それは・・・

- ① 地域全体で、同じ目的で取り組むという、これまでにない事業の実施により、やればできるという意識が生まれた。
- ② 住民同士のコミュニケーションがスムーズになり、地域力がアップした。
- ③ 住民の意見を収集したアンケートとその結果の周知。事業の進捗状況の周知等、地域住民へ情報発信をこまめに行い、事業への関心と理解を深めた。
- ④ プロジェクトを進める中で、地域のリーダーが生まれた。
- ⑤ 「郷土史“いろは”かるた」を活用した新たな動き（中学校の総合学習等）が生まれている。
- ⑥ 地域の夢実現事業の検討組織が母体となり、高齢者支援に向けた取り組みが派生的に生まれ、地域包括ケアシステムの検討と試行が開始すると共に、地域活動を継続するための地域組織の在り方についても協議が始まった。

